

「第4回 豊橋市街路樹再生指針検討委員会」議事内容

- 日時 平成29年11月1日(水) 14時~15時30分
- 場所 豊橋市役所 東館12階 123会議室
- 出席委員 別紙「出席者名簿」参照
- 事務局 7名

〔会議資料〕

- ◆次第
- ◆【資料1】街路樹再生指針(素案)
- ◆【資料2】街路樹再生指針検討マップ

1. 開会

2. 議事

- ・街路樹再生指針の素案について

事務局より【資料 1】街路樹再生指針（素案）が示され、内容について説明された。

<前回から今回までの方針等の変更点について>

- ・方針 3 本立てから 2 本立てへの変更

前回示していた市民協働に関する方針とシンボル形成に関する方針について、シンボル形成には市民の力がなくてはならず、それぞれの方針に切り離すことができないものであるという考えから、この二つの方針を一つにまとめた。

- ・方針の順番について

前回の検討委員会でのご意見を受け、この再生指針が目指す街路樹の姿について協議した結果、市民協働によるシンボル形成の方針を一番目に、安全性に関する方針を二番目に位置することとした。

（委員長）

・素案について、「はじめに」から第 1 章の構成や内容についてご意見・ご提案等をいただきたい。

<はじめに～第 1 章 1 豊橋市の街路樹の沿革と現状>

（委員）

・豊橋市の沿革については、過去の受賞歴などの華やかな経歴や自然樹形仕立てへの取り組みなどの歴史的背景も記載した方が、本指針での取り組みを考えていく際の参考になるのではないか。原案だと、いきなりネガティブな話や問題提起から始まる印象である。

（委員）

・今後何十年に渡り行政側がこの指針を継承し、街路樹再生に取り組んでいくということを考えると、「他の資料を見ないと分からない」というよりは、この指針内に歴史的背景の記載があった方が、その歴史を踏まえた上で行政が取り組んでいかなければならないことが明確になるのではないだろうか。

（副委員長）

・これまでの委員会で示されたような豊橋の取り組みをアレンジして載せた方がいい。

(委員)

- のちに※P D C Aサイクルを用いて再生プログラムを実施するときにも「何を大切にすべきか」という考えを振り返られると思う。
- 原案では昭和 51 年度と平成 28 年度の樹種別構成比が用いられているが、もう少し歴史的経緯、経年変化が分かるようなグラフを掲載した方がいいのではないかと。

(副委員長)

- 昭和 51 年度と平成 28 年度ではだいぶ変化していると思われるため、その間があってもいいのではないかと。

(委員長)

- 緑を増やすことは決して悪いことではないが、現状では様々な課題が生じている訳で、原案だと緑の印象をあまり良く受け取られないかもしれない。

(事務局)

- 人や車の通行も増加している等の社会状況の変化などもあるため、ご意見も含めて検討したい。

<第 1 章 2 現状の課題>

(委員)

- 先ほどの沿革とは逆に、このページでは問題について表なり箇条書きなりにし、書き出すことによって、P D C Aサイクルを回すときのチェック項目として効果が出るのではないかと。

(副委員長)

- 課題や問題に対する解決策の方向性についてこの段階で触れておく方がいいのではないかと。例えば大径木という問題一つでも、※腐朽菌に侵されている場合はどうするか…などの記載があってもいいのではないかと。

(委員)

- この第 1 章で課題が出てくるということにやはりネガティブな印象を受けられるため、章の組み立てとしていかがなものか。課題は問題点や解決策を含めて第 2 章の後ろの方でもいいのではないかと。

(委員)

- 構成についてはご意見があったようなことについて検討していただきたい。
- 課題の内容について、街路樹は基本的に歩道に植えるが、歩道の円滑な通行ができなければ街路樹は必要ないと思う。原案では歩道の交通安全への影響という問題認識が弱いように思う。
- 毛虫など害虫に関する記載は一部あるが、ムクドリについての対策について記載がないことについては気がかりである。まちなかではムクドリによる

※P D C Aサイクル
…Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)の 4 段階を繰り返すことにより、事業や業務を改善する手法のこと。

※腐朽菌(木材腐朽菌)
…樹木の傷口などから侵入し、木を腐朽させる微生物のこと。

糞等の被害に頭を悩ませている。ムクドリによってまちに親しみを持ちづらいような現状は大きな問題ではないだろうか。他にも課題はあると思うのでもう少しそれについて整理し、表などでもいいので記した方がいいように思う。

(委員)

• 例えばこの「ボランティアの抱える課題」のアンケート結果を示したあとに、課題を総括するまとめを記載するのはどうだろうか。

<第2章 街路樹に対する考え方>

(委員)

• 現在6ページ(第2章 街路樹に対する考え方 1 街路樹の役割・機能)にある街路樹の利益性についての説明は第1章の沿革の後に掲載し、街路樹のメリットを踏まえた上で課題について述べていくという流れにした方がメリット・デメリットの対比が分かりやすいのではないだろうか。

• その構成の方が問題を整理しやすいと思う。原案では街路樹の役割や機能について簡単に例示しているが、ビジュアルが映える街路樹の写真などを掲載し、もう少し丁寧にメリットを説明した方がいいのではないか。

(委員長)

• 「課題」を一つの章として構成してもいいのではないか。第1章で沿革や取り組みについてももう少し丁寧に書き、緑化するメリットについて記載し、そのあとで課題を一つの章として持ってくる方がいいと思う。

(委員)

• 市の関連計画や※国土交通省の改正については淡々と記してもいいと思う。

(委員長)

• 国の道路緑化基準の改正は、様々な課題を踏まえて行われた、という流れがいいと思う。

(副委員長)

• 沿革にある樹種別構成比のグラフを見ると、豊橋は※落葉樹が多い。国土交通省の基準改正でもあるように、地域の特性を考慮し、将来を見据えて樹種の構成についてはよく検討しなければならないと思う。ただ、※常緑広葉樹だけでは味気ない。様々な課題がある中で、例えば腐朽菌が侵入した樹木は伐採し、空いた植樹樹に花を植えるなどの取り組みがあれば市民に対する説明も説得力を増すと思う。

※国土交通省の改正

…街路樹は道路の附属物と位置づけられており、道路及び街路樹は国土交通省所管の法律等により規定されている。

※落葉樹…主に秋から冬にかけて葉を落とす樹木のこと。

※常緑広葉樹…一年を通じて葉をつけ、幅の広い葉をつける樹木のこと。

(事務局)

・5 ページにあるボランティアのアンケート結果「あなたが思う街路樹の問題」が実際には街路樹の課題にあたると思うので、この問題をボランティアの問題とするのではなく、課題の中に記載し、なおかつボランティアも問題として感じているという流れにしていきたいと思う。それを踏まえ、これまでの経緯と課題についてはもう少ししっかり記載する、ということでしょうか。

(委員長)

・ムクドリの問題など、課題についてももう少し表現した方がいい。原案では課題があっさりし過ぎていると思う。今のままだと細かな現状については分かっている人が読む前提の指針という印象がある。

(副委員長)

・緑のアダプト制度などのボランティアがどのように活動してくれているか、一般市民に伝わるだろうか。ボランティアの人々は高齢化で大変な思いをしている。

(委員長)

・ボランティアの問題ではあるが、高齢化は課題の一つといえると思う。

(委員)

・現在記載されている課題は「質」の問題だけ述べられおり、「量」についての問題は記されていないように感じる。

(委員長)

・4 ページに財政状況についての記載があるが、街路樹の良さを述べたあとに、様々な問題が生じている、という流れが良いのではないかな。

(委員)

・過去には狭い歩道にも街路樹を植えていったという経緯を書くべきではないかな。それが量の削減につながるのではないだろうか。今は樹木が成長したこともあり、自転車や歩行者までもが歩道をすれ違いにくい場所もある。そのような場所については街路樹を撤去する、という考えが通るのではないだろうか。

(事務局)

・まちなかなど、歩道幅員は狭いが公園などの施設が確保できない場所では街路樹は重要な緑となる。そのため、再生プログラムを実行するにあたり、歩道の狭さだけで一律に撤去できないという実情がある。ただ、委員のご意見のとおりそのような視点が撤去の基準の一つにはなると思う。

(委員長)

・課題のページでは今ご意見のあったような歩道の狭さなどは少ししか触れていない。そのような要因をもっと印象深く書いてもいいのではないか。樹木を植えられない場所については花などに置き換える、という考えを適用することができると思う。

・民有地の緑化推進なども、そうした実情が背景にあると上手く溶け込ませられると思う。

(事務局)

・時代のニーズに対応してきたが、取り組みの転換が迫られているという指針の必要性を分かってもらえるように、「昔は多くの緑が求められ植栽に励んだが、交通量の増加などによって歩道の通行人も増え、さらに樹木自体が大きくなってきて問題が生じている」などの経緯を丁寧に説明するよう修正したい。

・そのうえで、現在の基準に合っていない場所にも街路樹が植わっている旨を課題に書いていくようにする。

(委員長)

・街路樹が密に植わっているというような課題はどうか。

(事務局)

・3ページに少し記載している。しかし、表現として分かりにくいため絵や写真で見て分かりやすいように工夫したいと思う。

(副委員長)

・写真を載せる際はその撮影場所を記載した方がいいのではないか。

(委員)

・指針としてどこまでの課題を掲載するか、という議論は、課題をすべて洗い出してから行えばいいと思う。

(委員)

・電柱や電線、ケーブルなどと街路樹の兼ね合いは課題として挙がらない問題か。

(事務局)

・※道路を占有する側（電柱などを設置する側）が樹木と占有物が競合しないように枝払いなどを行うこととなっているため、課題として挙がる問題はないと捉えている。ただ、それによって良い樹形が保たれないという現状もある。

※道路を占有する…
道路上に一定の期間
継続して電柱などの
施設（占有物）を設置
する場合は道路管理
者の許可が必要とな
る。地下に埋設する上
下水道の管路や道路
上空の看板等も対象
となる。

(委員長)

・内容については修正し、順番については再検討ということで考えていきたい。

<第3章 街路樹再生に向けての方針 1 目標、2 目標実現のための方針>

(委員長)

・9ページの図のところに課題の記載があるが、ここでは将来の目標像を載せるべきではないか。

(副委員長)

・このページでは方針を表現しているため、ここでもう一度課題が出てくるのはおかしいと思う。

(委員長)

・せっかく方針について書いているので、「今後はこのようにしていきたい」という夢を載せてほしい。

(委員)

・目標と方針が混同しているように見える。本来なら第2章までを一旦総括し、目標を設定し、方針を打ち出すという流れだと思う。

(委員)

・課題解決の方向性を一旦まとめておき、そのあとに方針だけに絞って記載する方が見やすいと思う。

(委員)

・背景と課題を整理し、今後大切にしていくポイントをまとめるページが上手く表現できれば次のページに進みやすいと思う。

・8ページに抽象的なテーマ(目標)の記載があり、その下に「量から質」という具体的な取り組みが書かれているように見え、違和感を覚える。指針の中での8ページの役割をどのようなものにするか再考した方がいいのではないか。この図も何を表現しているのか読みにくい。

(委員長)

・第2章の終わりに課題のまとめと政策の転換に関する記述を入れ、第3章については目標と方針についてのみ記載するということがいいか。8ページの目標についてはキャッチフレーズのようなものなので、そう詳しく解説はいらないと思う。9ページの方針からは課題を省き、将来像を描く、ということしていきたいと思う。

<第3章 街路樹再生に向けての方針 3

方針1 ともに作りともに育てともにつなぐ街路樹の魅力づくり>

(委員)

- ・前回提案された方針の「豊橋らしい」という表現はなくなったのか。(事務局)
- ・「豊橋らしい」という言葉のイメージが人によってバラつきがあり、方針として方向が定まらなかったため、今回使用するのをやめた。発想を転換し、本指針によって新たな「豊橋らしさ」を作っていくことを目指していきたいと考えている。

(委員)

- ・街路樹の美しさや※審美性を求めたいというのは誰もが思うことだと思うが、スペックと状況を満たしていても美しくない街路樹や景観であるという事態に陥らないようにしてほしい。自然樹形だから良い、とするのではなく、美しい景観を目指していくというような文言を追加していただきたい。

(委員長)

- ・課題のところでも景観について述べた方がいいのではないか。

(委員)

- ・方針の中で「親しみ」や「愛される」という言葉はあるが、街路樹の価値としての景観という表現が出てきてもいいと思う。

(委員長)

- ・※ドラマのロケでも感じたが、豊橋は美しいまちである、という気持ちは誰もが感じていると思う。その美しさを再度形成して、豊橋らしさを謳う表現があってもいいと思う。

(委員)

- ・「豊橋らしさとはこういうものだ」という決めつけをせずに、「豊橋らしさを考えましょう」、「美しい景観を目指していきましょう」という市民への問いかけでいいのではないか。

(委員)

- ・10ページの重点ポイントにある「緑花(りょっか)」という言葉は造語なのか。

(事務局)

- ・造語である。緑化を緑花にすることで、花を取り入れていくという方針を表すものである。

(委員)

- ・この言葉は分かりにくいと感じたが、一般的な用語か。

※審美性…自然などの持つ本来の美しさや美しさを求めること。

※ドラマのロケ…豊橋市では近年、シティプロモーションや観光振興の一環としてテレビドラマや映画のロケーション撮影の協力に力を入れている。

(副委員長)

・田原市などでは「市民緑花まつり」を開催し、※コミュニティガーデンを作ったり街路樹の周りに花を植えたりしている。一般的に使われているところもある。

(委員長)

・11 ページにワークショップの写真が掲載されているが、実績はあるのか。

(事務局)

・萱町通りなどでは実践している。樹種の選定や植栽は地域と協働して実施していく方向性である。

(委員)

・暗に市民と行政のことを指しているのは分かるが、方針 1 の文言だけを見ると、「ともに」というのが誰と誰のことなのか不明瞭である。主語をつけるか、サブタイトルをつけるか工夫するべきだと思う。また、「ともに」という言葉を繰り返し過ぎているのではないか。

(事務局)

・方針の具体的なイメージを持ってもらうため、10、13 ページにある重点ポイントの文章を 9 ページの方針の体系図に入れ込めば、方針 1 の「ともに」の相手方も読み取りやすくなるかもしれないので、検討したい。
・「ともに」は主に市民と行政の連携を表している。市民と連携を取りながら市の責任を果たす、市民に寄り添っていくという姿勢を表したい。

(委員長)

・例えば、方針 1 を「市民とともに作り育てる…」などとする方が分かりやすい。
・方針 1 の「つなぐ」というのは市民同士のコミュニケーションをつなぐという意味合いでいいか。

(事務局)

・もちろんその意味もあり、さらに「次の世代へつなぐ」という意味も込めている。

(委員)

・「つくり」と「育て」は意味が近い言葉であるので、「市民とともに作り未来へつなぐ…」などはどうか。

(委員長)

・方針 1 については再考をお願いしたい。
・ボランティアの輪を広げる取り組みの記載はあるか。

※コミュニティガーデン…地域住民が共同で花壇などを作り、管理する場所。地域の庭としてまちづくりの手法にも用いられる。

(事務局)

- ・12 ページの「街路樹のつなぎ手づくり」がボランティア同士のネットワークを広げる内容になっている。

(副委員長)

- ・※「あいち森と緑づくり事業」による民有地緑化の助成制度など、市民は知らない人も多いのではないか。

(事務局)

- ・助成規定にかなり制限があるため、利用しづらい現状はあると思われる。

(委員)

- ・量から質への転換が示されているが、具体的に量に関する取り組みは書かれているのか。
- ・減らす際の判断基準などの記載はあってもいいのではないか。

(事務局)

- ・方針 2 (13 ページ) に例として路線的撤去などの考え方を記している。

(委員長)

- ・アメリカでは、本数こそ多くないが一本が立派な樹木であるため、緑が多いように感じる。自然樹形仕立てができる空間があればシンボル通りとして形成できるのではないだろうか。

(委員)

- ・くすのき通りは中央分離帯の植栽は立派で良いと思う。それ故に歩道側の植栽は必要なのかと思う。

(副委員長)

- ・そのような場所では歩道には花を植えてもいいのではないか。浜松市などは駅前では立体的な花壇づくりをしている。

(委員長)

- ・16 ページに課題解決の指標が示されているが、市民協働の取り組みにかかる指標の記載があった方がいいと思う。

3. その他

事務局からの連絡事項

(次回開催予定：平成 29 年 12 月頃)

4. 閉会

※あいち森と緑づくり事業(民有地緑化助成)…助成金支給には緑化対象面積など複数の規定を満たす必要がある。